

井伊直弼と能楽

かながわ健生クラブ

江戸時代幕末の大老、井伊直弼は、「安政の大獄」や「桜田門外の変」などの事件から、横暴な専制政治家のイメージが強いのですが、文化人としても傑出した人物でした。近江彦根藩の藩主であった井伊家は、能好きの藩主を輩出しました。シテ方では主に喜多流が、狂言方では大蔵流が召抱えられていました。

「直弼」は、13代藩主の十四男で、通常ならば藩主にはなれない境遇に生まれ、兄たちの死により、後に15代藩主となるのですが、部屋住み時代は、書や絵、歌、茶の湯、能・狂言などの風雅の世界に没頭し、特に「能・狂言」には造詣が深く、みずからも作品を作りました。

NHK・大河ドラマ「直虎」の許婚・直親(亀の丞)の子、直政(虎松)は関ヶ原の戦いで活躍し、「徳川四天王」のひとりとして、徳川家康の天下統一に貢献、初代・彦根藩の藩主になった。「直弼」はその家系の15代藩主です。

掃部山公園

大正3年井伊家が所有していた掃部山の園地・その他を市に寄付した。春は桜の名所として、夏には茶の通人であった大老井伊直弼にあやかった茶会(虫の音を聞く会)を行い多くの人々に親しまれている。掃部山は、江戸時代には「不動山」、明治に入ってから「鉄道山」と呼ばれていました。鉄道建設のとき、この地が事業の拠点になっていたからです。

井伊掃部頭の銅像

井伊直弼(1815~1860)は幕末の大老。彦根藩主。掃部頭。安政5年(1858)、大老に就任後、勅許(ちよつきよ=朝廷の承認)を待たずに日米修好通商条約を締結。横浜開港の総責任者となった。これを機に条約締結への反対運動が高まり、後に安政の大獄が起きた。それがもとで万延元年(1860)3月3日、江戸城桜田門外で暗殺された。掃部山公園に井伊掃部頭の銅像が建立されたのは明治42年。然し、この銅像は戦争中の金属回収のため撤去され、現在ある銅像は昭和29年鑄造されたもの。昭和59年から毎年秋に、この銅像前の広場で井伊直弼が愛好した能にちなみ「かもんやま薪能」として演じられていました。



井伊直弼像と横浜能楽堂